



森本利通、ステップス二度目の個展である。前回の 2013 年 11 月の個展が終了し、NYC へ行こうという話になり、2015 年 4 月に実現した。NYC のセイラム・ギャラリーは自然光が程よく入る空間であった。私は東京と NYC では気候が異なるから作品の見え方から発見があるだろうとパンフレットに記した。確かにその通りであったが、NYC の雲の下で、東京と変わりなく、否、それよりも強固に異彩を放つ森本の作品の強さに感動したのであった。森本は今回の個展で、四点の作品を出品した。NYC で見た作品も含まれていたが、全く異なる作品に見える。オーナーの吉岡は 2013 年の際には画廊の壁面三面に二段掛けでランダムに展示したが、今回は大人の胸よりも低い位置に、水平に作品を並べた。NYC では私の監修の元に、作品を高く高く展示したと反対の見解である。吉岡は NYC の展示を見ていないので、吉岡独自の発想である。それにより作品の下部が強調され、より高く森本の作品が宙に浮く印象が色濃く残る。上昇する印象を与える為に、上部へ展示すればいいのではないのだ。

今回、森本は腰を痛めてしまったので、新作は制作途中のまま展示した。それだけでなくとも森本の作品はケント紙に薄いアクリルを塗り重ねるため、毎日制作に時間をかけても 6 枚を描くのに 3 年を要する。それにしても制作途中の作品とは思えないほどの純粋な輝きに満ちている。まるで森本の作品は塗り重ねられて画面の強度が上がるのではなく、塗り重ねることが削ぎ落とすことに繋がっているのではないかという、新たな異相が発見できたことは喜びである。私は DM で E・カントが「排除」した概念についてメモ書きした。これは絶対ない、考える必要はないであろうという地点から、物事が始まることを私は信じている。不可能であるからこそ、不可欠な存在であることを探るのだ。

